

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900070	事業の開始年月日	平成22年 10月	
		指定年月日		
法人名	社会福祉法人 ユーアイ二十一			
事業所名	太陽の家 安浦倶楽部			
所在地	(〒238-0012)			
	横須賀市安浦町2-27-2			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	9名	
		定員計	名	
		工外数	工外	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成26年9月19日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『明るく、楽しく、元気よく』を事業所のモットーとし、ご利用者・ご家族・職員が気兼ねすることなく、喜怒哀楽を全開に日々の生活を共に送っています。

ご利用している方の多くが事業所から5分圏内に住まれていることから、歩いて通っているかたもたくさんいます。地域の方からも声をかけていただき町内の行事に参加したり、困っている近隣の方がいれば一緒にかかわりをもたせてもらっています。

業務についても日々振り返りを行い、ご利用者に楽しんでもらうためには、ご家族の気持ちを理解するためには、自分たちが何が出来るかを職員一丸となり考えています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年7月15日	評価結果確定日	平成26年8月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】
 当事業所は京浜急行県立大学駅徒歩1分の駅近くにある。法人は訪問歯科、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、通所介護、地域包括支援センターなどの事業を行っている。旧医院を改装した建物は周りの街並みに馴染み、近隣の人にも気楽に入ってもらえる造りになっている。

【理念に基づく支援の実践】
 「明るく、楽しく、元気よく」を事業所のモットーとし、実践している。「明るく」は常に職員の意見を聞いて何事も決定するという透明性とも通じ、職員の信頼感とモチベーションの高さにつながっている。「職員が楽しくなければ利用者も楽しくない」という管理者の考えのもと、職員がやるべきことを自ら考え実践することを目標としている。新人、中堅職員と一緒に仕事を覚え振り返りができるよう「共有ノート」を作成している。利用者も職員も元気よく、笑いの絶えない事業所を目指し、職員の定着率もよく、働きやすく楽しい職場となっている。

【地域との連携】
 開設当初から町内会の役員を引き受け、地元へ貢献してきた。事業所への理解を深めてもらうために「介護教室」を開いたり、地元の行事に積極的に参加している。その結果、利用者の大半が近隣の方という、地域に密着した事業所となっている。近隣の保育園児がクリスマスにプレゼントを持参し、利用者がお礼に絵をプレゼントするなど交流を深めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	太陽の家 安浦倶楽部
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「安心、ぬくもり、満足」を踏まえながら事業所としてのモットーに則り、日々遂行できているか振り返りながら会議の場で話し合い共有し随時業務を改善しています。	法人の理念「安心、ぬくもり、満足」と事業所の理念「明るく、楽しく、元氣よく」がある。日ごろの話し合いや申し送り時などで話し合っている。「明るく」は透明性という意味もあり、事業所の運営は、常に職員の合議の上で決めることを心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所地域の組長を一昨年、昨年と担当し本年度は副組長としてかわりをもっています。町内の行事にも声をかけてもらい参加しています。	開所時より町内会の役員を受け、共に活動することで地元の信頼を得てきた。町内会で年に2回介護保険や認知症の講座を開いたり、夏祭りや芋煮会などの地域行事に利用者と共に参加している。近隣の保育園との交流もある。紙芝居やそば打ちのボランティアなどの来訪がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年に1回、町内会から声をかけてもらい認知症の理解、介護サービスのことについての勉強会を開催しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催しご家族、地域のかたに参加してもらい運営状況の報告や行事の紹介を行い意見をいただいています。会議形式以外にも餅つきに参加してもらっています。	年に6回奇数月に市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者などの参加を得て開催している。毎回テーマを決めて話し合いをしている。5月にはサテライト開所を含む事業計画などについて話し合った。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度での疑問点が合った場合には担当課に連絡しています。また横須賀市から他の小規模多機能からの相談事の照会を受けたりと連携を図っています。	市では初めての小規模多機能型事業所として、開設以来行政と緊密に連絡を取っている。窓口に行き相談したり、時には市からの相談も受けている。管理者は横須賀市の小規模多機能型事業所連絡会（3事業所が加入）の会長を務め、活動している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの取り組みについては法人で年1回研修があります。玄関は常時施錠をしています。ご利用者から希望があった場合には散歩や買い物、植木の水遣り等、外に出る機会を作っています。	法人の年間研修計画の中に毎年「虐待、身体拘束」についての研修が企画されている。職員もできる限り参加している。「制しないこと」を基本として、利用者の行動したい気持ちを汲むよう指導している。鉄道の駅が近いので、玄関の施錠は常に行い、利用者が外出を望んでいる様子のあるときは、一緒に散歩に出かけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については年1回、法人での研修があります。ご自宅や事業所では虐待に繋がる前の段階で声を掛け合えるような関わりをもっています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、必要と思われるご利用者やご家族には説明を行い資料の配布をしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項をもとに説明を行い同意を得ています。また契約の前にも何度かご自宅に足を運び信頼関係を構築できるような取り組みをしています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のモニタリングで意向の確認を行っています。連絡帳に記載があった場合には全職員が周知できるように取り組みを行っています。必要な情報は申し送りノートを活用し会議でも話し合いを行っています。	玄関に意見箱を置いている。通いの連絡帳を活用するほか、送迎の際に意見を聞くことが多い。毎月ケアマネジャーが家庭訪問する際に、家族と意見交換の時間を取っている。不定期だが「たより」を発行し情報の共有を図っている。もちつきや夏祭りなどの行事には、家族の参加も多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の場で疑問点や改善点について検討をしています。年1回程度職員へのアンケート調査を行い、面と向かって言えないことでも気兼ねなく問いかけるようにしています。法人の取り組みとして提案箱制度があります。	毎月のミーティングの場で話し合うことを基本としている。小さなことでも「連絡ノート」に意見を書き、全員で共有している。年に1度職員アンケートを行い、運営に関して意見を聞く機会を持っている。法人に直接インターネットで提案できる「提案箱」の制度があるが、管理者に直接話に来る職員が多い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課についての整備があり、職員個々の能力や資格取得に対する給料改善を行いました。モチベーションを維持、向上できるよう日頃より職員ひとりひとりの声を聞き一緒に考える体制を作っています。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や評価以外にも事業所独自に共育シート（マニュアル）を作成し、個々の職員の業務への遂行能力について確認できるようにしています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のネット環境でメールのやりとりを行ったり、現在取り組んでいる事業等についても随時アナウンスを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がどのように生活してきたか、また何をしたいとしないのかを時間をかけて聞き出すようにしています。こちらの話にも信頼して耳を傾けてもらえるようなかわりを心がけています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の意向に添った上でご家族の希望や要望についても時間をかけてお話を聞くようにしています。まずご利用者との関係性を作るためにもご家族にも協力をしてもらえるようお話をしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護サービスを使っていた方、新規の方に対しても前任のケアマネジャーの方の意見も踏まえ小規模多機能に何を望んでいるのか、何ができるのかを検討し利用に繋げています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族にも理解していただき一緒に生活を送る同志として対等の関係性を築いています。年長者としての知恵と経験を存分に活かしてもらえるような働きかけを行っています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に無理のない範囲でご利用者とかかわりを持ってもらえるよう動機付けを行っています。今までの関係性を理解し、これからは繋がるような随時の声かけと関わりを心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前に聞き取りを行い、関係性を維持するために必要であれば声かけや協力の要請をします。小規模多機能は制度上、今までの介護サービスが使えなくなりケアマネジャーも変更になることから、途切れなくさせることにも一部限界があります。	初回アセスメント時に「自己紹介シート」を作成し、生活歴を大切にケアにあたっている。地元の利用者が多く、町内の夏祭りや地元の行事の芋煮会などに参加している。「久しぶりに三笠焼が食べたい」という利用者と共に、店まで買いに出かけることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご家族の理解のもと、ご利用者同士での関係性を大切にしています。助け合おうとしている際にも「危ない」と止めるようなことはせず見守りに対応しています。言い合いも自然にあります。共に労い合い、助け合って生活を送られています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設サービスに移行になってもご本人が落ち着くまでは行き来を継続しています。現在でも登録終了（ご利用者が他界されている）したご家族が遊びに来てくれたり手紙をくれます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	決まった利用日以外にも、ご本人の意向に添っていつでも利用してもらえる環境作りをし、ご家族にも気兼ねがないよう日頃から声をかけています。	毎日のかわり代わりでやりたいことを支援し、やりたくないことは無理強いしない支援を心掛けている。できるだけ本人に聞いて判断するようにしている。思いを表現できない利用者は生活歴や家族の話から判断できるよう、声掛けを工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の面接時に事業所独自の面接シート（自分紹介シート）を使い聞き取りを行っています。それぞれの家の地域で行っていた活動についても聞き取りをしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までのことだけではなく、現在そしてその日にどのように過ごしたいか確認を行っています。家での様子についてもご家族が連絡帳で知らせてくれるので職員が周知するような体制も作っています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で常に変化に気づき、その時その時に話し合いができる体制を作っています。ご利用者にとっても自分たちにとっても良い結果がでるような目標のもと必要な支援を行っています。	ミーティングでは家での状態や通いの時の状態を報告し、支援について話し合っている。些細なことでも「利用者ノート」で情報を共有している。本人や家族にも話を聞き、計画を立てている。計画書は常に職員の見えるところにおかれ、職員は計画を意識しながらケアを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録以外にも申し送りノート、気づきシート、ボディチェックシートを作成し、小さなことでも職員同士が情報を共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問に関しては定期利用以外にも体調不良や所在不明時、安否確認等、また季節に応じて熱中症を予防できるよう水分補給の声かけに行ったり、火鉢の確認に行ったりと必要に応じた支援を行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族と相談し自宅近隣の方にご利用者の心身の状態について説明し理解してもらった上で、何かあった時に連絡をもらえる体制を作っています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があるご利用者に関しては直接かかりつけの医師に連絡を入れさせてもらいます。また定期受診の前には温度版を印刷し持参してもらっています。	今までのかかりつけ医を継続している。家族と受診するのが基本ではあるが、忙しい時や急な時は管理者が受診に同行している。その際に血圧や体温などの記録を主治医に渡す。医師に日ごろの様子をファックスで送って情報の共有を図ることもある。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の記録に関してはすべて業務日誌に記載し職員が周知できるようにしています。身体面や精神面での変化、体調の変化や排便の有無についても都度話合うようにしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際には病状説明に集積させてもらっています。退院までの経過についてもご家族と一緒に説明を受け、必要治には担当医師や看護師以外にも地域連携室のSWのかたともやりとりをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の設備上、終末期までの受け入れは困難であることからご家族に事前に説明を行っています。体、心の小さな変化にも気づけるよう日頃より表情や仕草からも読み取れる関係性を築けるよう心がけています。	浴室などの設備の都合で、看取りまでは考えていない。利用開始時に話をし、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めたりしている。関係性を重視し、できるだけ継続して支援ができるよう、家族とも話し合っている。	重度化や終末期対応についての事業所の考え方を文書で提示できるように、「指針」の作成を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、見直しや連絡体制の整備を行っています。24時間365日、ご利用者・ご家族から連絡を受けられる体制（オンコール）をとっています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施しています。地域の方にも参加してもらい、日頃の防災で留意していることについての意見交換をしています。町内の避難訓練にも参加しています。	町内の防災訓練には利用者と共に参加している。1月に消防署の立ち入り調査を受け、7月に事業所の防災訓練を行い手順の確認や水消火器の訓練を行った。7月の夜間想定訓練はシミュレーションを行っただけで、実際に利用者と共に行動するところまではいかなかった。話し合いを基に実行計画を作成中である。備蓄は3日分を1階に保管している。	計画に基づいた避難訓練を定期的に行うと同時に、近隣との一層の協力体制を築かれることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族の理解のもと、ご本人の今までの生活環境に添った言葉かけを行っています。	職員には「共育ノート」で言葉使いや接遇の研修を行っている。生活歴を考慮し、女性を旧姓で呼んだり、「棟梁」とか「先生」など利用者に応じて呼び方を工夫し、喜ばれている。トイレの誘導は耳元で話したり、声のかけ方を工夫している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で必要以上の助言は行わず自主的に動いたり、休んだりしてもらえるような支援をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模多機能の特性を活かし、その日その時に必要な支援を実行しています。ある程度のとりきめはあっても、ご本人の気持ちに添って予定を変更して対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かけることが楽しみになるよう、ご家族にも協力してもらい、美容院の付き添いを継続してもらったり、アクセサリーもつけて来られる環境作りをしています。マニキュアレクも行っています。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のカレーの日、毎週2回のおたのしみおやつを企画し、ご利用者と一緒に選び買い物し作り食べることに取り組んでいます。調理以外にも掃除や洗濯も一緒に行っています。	配食業者がメニューを作成し、食材を配達している。調理は職員が行っている。時には希望を聞いて外食にしたり、出前を取ったりしている。月1回のカレーの日や週に2回の手作りおやつの日にご利用者と共に手作りしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者それぞれの食事札を作成し禁食や嗜好、量について把握しています。体調に合わせてもりつけの量を変更しています。食事の際にも必要以上の支援は行わず見守りと声かけを心がけています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔衛生を行っています。歯磨きが困難になってきた方についてはスポンジを用意しています。コップや歯ブラシの消毒についても随時行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在要介護4の方で自宅ではおむつ対応をしているが、日中安浦倶楽部に来ているときには尿意や体調に合わせて職員2名体制でトイレで排泄の支援を行っている。	トイレは1階に2か所、2階に1か所ある。脱衣所の中にもあり、入浴前やゆっくり用を足したい時に誘導している。できるだけトイレでの排泄を支援し、チェック表や様子を見て声掛けを行っている。訪問で排泄のチェックだけをする利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の前には体操を行ったり、食事やおやつ時以外にも、コーヒーやポカリ等、嗜好にも配慮し提供している。ご家族に対しても便秘に留意してもらえよう働きかけている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ある程度のとりきめは行っていますが、その日その時の体調や気分に合わせて日程の調整をしています。また足浴で対応したり沐浴剤や音楽を流したりとリラックスして気持ちよく入浴できるような環境作りにも努めています。	利用者の意向を大切にして、入りたい時に入れるよう支援している。入浴の予定があっても、利用者が入りたくない時は無理強いせず、ご家族には経緯を説明している。浴室では音楽を流し、リラックスできるよう工夫している。行事湯や入浴剤などを利用者は楽しみにしている。自分専用のシャンプーを持参する方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間を家族から連絡してもらい様子を見ています。昼夜逆転を予防するためにも必要以上の長い時間の休息は控えていますが、食後には食休みの時間を作り浮腫軽減にも努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイリングしていつでも目を通せるようにしています。ご家族にも内服薬の増減や変化があった場合にはお知らせしてもらえよう働きかけています。お薬の取り扱いについては適宜ミーティングで話し合い誤薬を予防できる取組について検討し実践しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者が得意なことや好きなことを把握し、取り組んでもらう環境作りをしています。役割を持って行ったことに関しては感謝の言葉を伝え、必要とされることの喜びや達成感を味わってもらえるよう心がけています。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせてドライブや散歩に出かけられるようにしていますが、その日の職員配置等により実践できない場合もあります。	利用者の希望を聞き散歩をしている。ドライブはマンツーマンで、その日の状況に応じて積極的に行くようにしている。近隣の店に買い物に行けるよう通いの時に利用者は財布を持って来ている。愛犬と共に来て、一緒に散歩に行くこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	面接時に説明を行い、出かける際に不安にならないよう、また好きなものを自身で購入できるようお小遣いを持参してもらっています。ご自分で管理できる方はお財布を持ってこられ、難しいと思われる方については、連絡帳での管理を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お泊り時にはご本人が不安になるようであれば一番信頼できるご家族に電話連絡しお話をしてもらえるようお願いしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はご利用者と一緒に取り組んでいます。リビングから見える大きな窓の外に鉢植えを置き季節の花々や野菜を植えて見えるようにしています。天井の飾りや大きいカレンダーも季節に合わせた装飾をご利用者と一緒で作っています。	玄関周辺に「安浦農園」と命名したプランターでトマトやナス、キュウリなどを育てている。ゴーヤのグリーンカーテンもある。掃除は通いの利用者が帰宅する頃に泊りの利用者と共に行う。利用者の作品や職員の似顔絵、管理者の手作りの書などが飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内がかなり手狭なことから独りになる空間作りについては課題としています。席については仲の良い人同士で自然と一緒に過ごされています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた枕や毛布の持ち込みを自由にしてもらっています。自身で作った作品を部屋に飾ることもあります。	泊りは2階に5人、1階に4人泊まれるようになっているが、現在は2階のみ使用している。和室もあり好みの部屋に泊まれる。宿泊が初めての利用者には管理者が付き添うことにしている。泊りの部屋にも利用者が共同で作った大きな作品が飾られている。利用者は枕や毛布、晩酌などを持参する方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく車椅子は使用せず歩けるような支援をしています。部屋が狭いことから環境を工夫するよりもご利用者、職員が日頃から声をかけあい、道を譲りあっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 太陽の家 安浦倶楽部

作成日 平成26年 8月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<ul style="list-style-type: none"> ① 夜間（職員が一人で対応）を想定した非難訓練が行えていない。 ② 町内・地域の人に避難訓練に参加してもらっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 昼夜問わず利用者が安全に非難できる方法を職員が周知している。 ② 消防署にも協力してもらい、町内・地域のかたも参加できる非難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 昼夜を想定した非難訓練を実施する。重度の利用者の避難方法についても確認する。 ② 早めに案内を行い町内・地域の人にも参加してもらおう。消防署にも協力を依頼する。 	6ヶ月
2	33	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業所の環境面において、重度のかたや終末期を迎えるような利用者の受け入れが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看取り介護に関しての事業所の考え方やできること等をまとめ指針を作成し、利用前に説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事業所の設備、職員の考え方をまとめ、重度化や終末期の利用者に対してできることとできないことをまとめる。看護、法人と検討し看取りの指針を作成する。 	6ヶ月
3	13	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員個々の勤務形態や能力により訪問、送迎や夜勤業務等、全員が同じ業務に取り組むことが困難になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 業務につけない場合にも内容を理解していることで連携体制が取れる。できる限り全員が同じ気持ちで同じことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 共育シートを活用し、個々の職員が今現在できる業務について確認していく。ミーティングや日々の話合いの中で情報を共有し実習を行いながらマニュアルの見直し、整備を随時行っていく。 	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。